

医療法人財団 友朋会 嬉野温泉病院

02-04 特集:家族への支援 05 地域連携室通信 06-07 海外研修報告／ふれあい看護体験  
08 日本看護協会 精神看護 部門研修会報告 09 湯らっくすコンサート／フラダンスボランティア 10 防火・防災訓練について  
11 オリーブ スタッフ紹介／本山師長看護功労感謝状受章 12 診療担当医師一覧表・友朋会の理念



# 特集：家族への支援

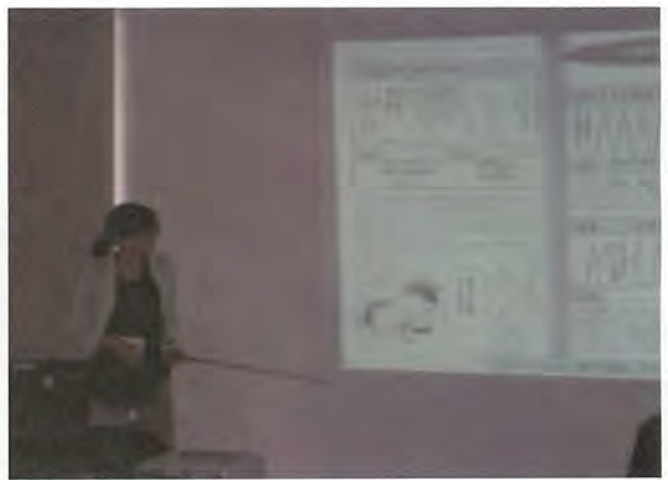
精神医療保健福祉分野では、当事者、家族への援助技法のひとつとして心理教育が行われます。心理教育とは、『精神障害やエイズなど受容しにくい問題を持つ人たちに、正しい知識や情報を心理面への十分な配慮をしながら伝え、病気や障害の結果もたらされる諸問題・諸困難に対する対処方法を習得してもらうことによって、主体的に療養生活を営めるよう援助する方法』と定義されます。

私たち友朋会でも外来や急性期病棟、療養病棟などで、家族への援助の一環として家族会、家族教室を開催しています。今回はそれらの一部を紹介します。

## 1) 家族心理教室『オリーブの会』

外来、急性期治療病棟の患者さんのご家族を対象に実施しています。この会は、月1回、計7回が1クールになっています。内容は2部に分かれており、前半はスタッフから統合失調症の病状や経過、薬物療法、リハビリテーション、社会資源、ストレスへの対処方法などについて講義、後半はご家族とスタッフでグループワークを行います。グループワークでは、ご家族が困っていることを話していただき、解決のための方法をともに考えたり、アイデアを出し合ったりします。ご家族は生活の中で様々なことを試したり、患者さんの気持ちを考えていたり、病気のことを勉強されています。私たちは、グループワークを通してそれらの振り返りを行い、ねぎらい、ご家族がすでにできていることを伝えることで、少しでも元気になっていただけるよう努めています。

患者さん、ご家族がより良い生活ができるよう、ご家族とともに実りのある会を開催していきたいと思っております。



## 2) 精神療養病棟 家族懇談会(西1病棟)

西1病棟には地域移行を目指している患者さんが入院されています。入院患者さんのご家族を対象とした懇談会では、患者さんが作業療法等で作られた作品や農作物の展示、レクリエーション時の楽しそうな写真などを掲示します。また、患者さんの生活の様子ができるように、担当看護師や作業療法士より個別にメッセージを書いたものをご家族へお渡ししたり、患者さんにご家族が交流できるレクリエーションや、病気についての講話も実施します。後半は主治医別の合同面談にて、ご家族の思いなどを話して頂いています。あえて個別面談にしていないのは、他のご家族の話聞く機会を作り、家族としての関わりの良いアイデアを共有してほしいとの思いからです。

今後も患者さん、ご家族の想いに寄り添い、ニーズに合った支援ができるよう病棟スタッフ一同、取り組んでいきたいと思っております。次回の家族懇談会は11月に予定をしています。

### 3) 精神療養病棟 家族懇談会(西2病棟)

西2病棟には長期入院されている患者さんが多くいらっしゃいます。懇談会では患者さん、ご家族、スタッフの交流を目的として平成24年6月16日(土)に喫茶オリーブを会場にして開催し、7家族10名のご家族へ参加していただきました。午前中は、参加者の方々とスタッフが一緒にレクリエーションを行い楽しく過ごしました。ご家族からは「面会の時とは違った表情が見ることができて良かった」等の感想を聞くこともできました。昼食は、日清医療食品より、お弁当及びバイキング食を準備していただき、和やかな雰囲気の中で食事を楽しみました。午後からは小グループでのミーティングで、ご家族間での交流を図っていただき、これまでの経過や将来への不安などをお互いに意見交換されていました。その後、精神科医師よりコミュニケーションスキルについての講義があり、ご家族も熱心にメモを取られていました。

目的としていた交流は十分に図ることができ、同じ体験を共有できたことも貴重であったと考えています。

参加していただいたご家族には、スタッフ一同感謝し、今後も家族懇談会を継続することでご家族との信頼関係の構築を図っていきたいと思っております。



### 4) 児童思春期外来家族会「おやどりの会」

児童思春期外来「とまり木」を利用されているご家族を対象に、隔月で開催しています。この会は臨床心理士が同席し、主に子供さんが不登校状態となっているご家族が毎回4～6名参加され、様々な思いを語り合っていたく場となっています。会ではスタッフの積極的な介入はあえて行わず、自助グループ的な雰囲気を大切に、ご家族同士の相互支援的な関係性や傾聴する雰囲気が生まれるよう心がけています。会のはじめに、ご家族が直面している現状や気持ちを報告していただき、自己を表現する機会を得ることで、自身の問題に向き合うことができたり(親御さんの声の例:学校に行ってほしいと思うばかりで、子供の気持ちを理解しようとしていなかった)、他の参加者からの深い共感的理解をしてもらうことで、孤立感を軽減したり(例:本当にこの辛さを感じてもらえた)、肯定感が高められたりします(例:親も一人の人間としてきつさを話してもいいんだ)。参加者の方々からは『同じ立場の方に話を聞いてもらってスッキリした』『大変なのはうちだけじゃない。また頑張っていこうと思えた』等の感想をいただいております。中には、継続して10回以上来てくださっている方もあり、不登校の親の先輩として、貴重な実体験を語ってくださることもあります。以前は苦しさを語るだけであった方が、親としての有能感を回復された姿は、他の方にとって心強さや希望を与えるものとなります。

ご家族の率直な気持ちを語りながら互いにサポートし合う場、困った時だけでなく、経験者として何か役に立ちたいと思った時に立ち返れる場になるよう継続していきたいと思います。

### 5) 認知症の家族会『ものわすれを語る会』

当院ものわすれ外来利用中の認知症の方を在宅介護されているご家族を対象にしています。年4回ほどの不定期開催ですが、日頃の介護の状況を話したり、ご家族としての思いや悩みを共有し、知識や知恵、地域の様々な情報を交換することで、ご家族自身の精神的な安定や介護に向かうエネルギーを得て、支え合いの場となることを目的としています。認知症の方を抱えた家族にとっての困難は、「認知症」という病気を受け入れる行為です。ご家族は、認知症の診断にショックを受け、今後どのように進行していくか、不安にかられ混乱されることも少なくありません。さらに同居していない親族や近所の方から、病気やご本人との日常生活について理解が得られないことも多くあります。このため、生活を共にしているご家族は、周辺症状等への対応に戸惑いと混乱を感じつつ、周囲に理解されない孤立感・不安感が募り、認知症のご本人に怒りをぶつけてしまうこともあります。こうしたご家族にとって、家族会はとても重要なものだと思います。

「今日はここに来てよかった」といわれることが、次回開催の励みにもなります。認知症疾患医療センターも発足し、認知症高齢者の方が、住み慣れた地域や自宅で安心して暮らすことのできるよう、ご本人・ご家族への支援の一つとして今後も続けていきたいと思っております。

## 6)リカバリーセンター「ほほ笑み」(精神科デイケア・ナイトケア)家族懇談会

当院リカバリーセンター利用者のご家族を対象に、年2回開催しています。これまで、主治医ごとの個人面談、集団面談のほか、「病気・お薬について」「使える福祉制度」「就労支援について」など、スタッフからの医療・福祉に関する講演、利用者さん・ご家族からの体験談発表、利用者のご家族が実施してきました。今年7月の懇談会では「これまでの、これからのリカバリーセンターについて」と称し、「リカバリーセンター ほほ笑み」へ名称変更の経緯、リカバリーやストレンクスという新しい考え方の説明をさせていただきました。ご家族に分かりやすく印象に残るよう工夫し、ご家族からも「とても分かりやすい説明でよかった」「新しい考え方が自分達にもできることがわかりました」と概ね好評の意見をいただきました。



今後も、利用者、ご家族のリカバリーを支えられるよう、スタッフ一同関わっていきます。

私たち友朋会スタッフは、当事者だけではなく、当事者を支えるご家族の心理的援助も積極的に行っていきます。必要十分な情報提供を心がけ、当事者のご家族のリカバリーを支えます。

# 家族心理教室 「オリーブの会」のご案内

## ■参加について

事前に参加のご希望を担当者にお知らせください。

## ■参加費

1回500円です。7回分をまとめてお支払いされますと3,000円に割引となります。

## ■お問い合わせ

嬉野温泉病院 0954-43-0157(代表)

医療福祉課 谷口朗子、岩根可奈



	日 時	講義内容
1回目	H24年 9月 8日(土)	統合失調症について
2回目	H24年10月13日(土)	障害と福祉制度
3回目	H24年11月17日(土)	薬について
4回目	H24年12月 8日(土)	統合失調症の経過と治療について
5回目	H25年 1月19日(土)	リハビリテーションについて
6回目	H25年 2月16日(土) 9:20 ~ 12:30	家族の対応
7回目	H25年 3月16日(土)	家族自身のストレスマネジメント

受付 / 9:20 講義 / 9:40 ~ 10:20 グループワーク / 10:30 ~ 12:30  
日時や内容は変更になることがあります。あらかじめご了承ください。

# 地域連携室通信

友朋会嬉野温泉病院では、精神科と一般診療科にそれぞれ「地域連携室」という相談窓口を設けております。前回の精神科地域連携室に引き続き、今回は一般診療科地域連携室の役割や機能についてご紹介させていただきます。

1.東病棟1階受付付近



2.一般診療科地域連携室窓口



3.一般診療科地域連携室内



4.患者さま相談室内



地域連携室では、友朋会の「患者さまのために」という理念に基づき、地域の医療・福祉施設や関係機関との連絡調整や地域の皆様への情報提供を行っております。一般診療科地域連携室では、ソーシャルワーカーを3名配置し、業務内容としては「相談業務」と「院内外への連絡・調整」を中心としております。相談の内容としては、受診・入院・退院に関すること、介護保険サービスやその他福祉サービスの利用に関することなどです。患者さま、ご家族が抱える様々な問題に関して相談を受け、解決のお手伝いをしております。「院内外への連絡・調整」では、当院入院中、通院中の患者さまが他の医療機関への受診、検査予約をとられる際の連絡調整や他の医療機関や福祉施設等からの紹介、転院の調整などを行っております。

また、一般診療科地域連携室では平成24年7月より入院患者さまやご家族からの病気に関する質問や入院上の不安等、様々なご相談に対応する為の専門の相談室（患者さま相談室）を設置しました。患者さまやご家族からの相談やご意見を受け付け、相談内容によっては専門の職員が対応できる体制を整備しております。何かございましたらお気軽にご相談ください。

連絡先：一般診療科地域連携室（東病棟1階 内線500,501）

一般診療科地域連携室 0954-43-0255（直通）

【一般診療科地域連携室からのお願い】\*入院相談に関しては長時間を要する場合がありますので、できる限り事前の電話連絡をお願い致します。

作成者：豊田佳那・西村優子・諸隈望・山崎二美

作成責任者 正司吏臣

# 海外研修に参加して

～2011年度 社会福祉士・精神保健福祉士海外研修～ 医療福祉課 岩根 可奈



2012年2月1日から29日の1ヵ月間、ニュージーランドのクライストチャーチで研修を受ける機会をいただきました。この研修は、社会福祉振興・試験センターの事業で、ソーシャルワーカーの実践的な相談援助の方法や技能を学んだり調査したりすることを目的としたものです。

私は急性期治療病棟を担当しています。退院後、うまく地域へ定着できるよう、多職種による支援や地域とのネットワークを築いていますが、入院期間が長期化したり、再入院したりする患者さまが多いのが現状です。その点、海外は日本と比較して入院期間が短く平均して3～4週間程度です。入院中も、リハビリ病棟では地域での活動を中心としたプログラムを実践しています。また、地域ではデイケアのような通所型の活動の場が多くあり、ユーザーが主体的に活動できる体制がとられています。短期間の入院で地域生活に戻り、そして生活をいかにして支えていくかを学ぶため、今回の研修に応募しました。

研修内容は救急外来と急性期病棟が中心でした。救急外来では、病歴聴取後、診察につなげたり、レスパイトという宿泊型施設の利用につなげたりと患者さまのニーズと状況に応じてソーシャルワーカーが判断し計画を立てていました。ここでは、ソーシャルワーカーの判断力が問われること、ストレングスに注目した面談を実践していることが印象的でした。

急性期病棟でのソーシャルワーカーの役割は、住居探し、家族の受け入れ状況の確認など普段実践しているソーシャルワークと同じでしたが、入院期間が短いため状況把握力やアセスメント力が必要だと思いました。また、他機関との情報共有、支援の組立て方など、支援のスピード、フットワークの良さが求められます。カンタベリー地区を対象とした精神科病棟は少なく、私が研修先で行った所のみでした。回転率も高く急性期治療終了後、すぐに退院し地域チームにバトンタッチされます。そのため、毎週、多職種カンファレンスを行っていました。

また、ソーシャルワーカーの大切な視点である人権擁護に関しては、日本の医療保護入院のような入院形態や閉鎖処遇の必要性について定期的に裁判所が病院を訪問し多職種で判断を行っていました。

地域のサービスは、非営利組織、非政府組織による支援が充実していると思います。休養目的のレスパイト施設や生活訓練のためのグループホーム、金銭問題のみの相談を受ける団体、人権擁護団体等、さまざまな支援団体がありました。

また、研修で特に印象的だったのは先住民であるマオリへの処遇でした。マオリの方は比較的精神医療サービスの利用や公的扶助受給者が多いとのことでした。そのためマオリ専属のソーシャルワ-



救急外来スタッフルーム



急性期治療病棟



急性期病棟 隔離室



マオリ伝統文化の1つ

カーが配置され、他のスタッフも研修を受けマオリの文化や言葉などについて理解を深めています。定期的なマオリミーティングをし、一緒に食事をしながら交流を図っていました。言葉や文化の違いを超え、手厚い支援体制が構築されていることが印象的でした。その中で、支援対象者の文化や言葉、ライフスタイルを理解した上で支援していくことの大切さに改めて気付かされました。

研修が始まってすぐにクライストチャーチ沖地震の1周年祭がありました。まだ、街には立入り禁止区域があり、崖崩れがそのままの所もありました。面談時に震災の話をする人も多くおられました。日本でも、同時期に東日本大震災が起き、被災地の生活が元に戻るには長い時間がかかると思われませんが、ソーシャルワーカーとして何ができるかを改めて考えさせられました。

今回、語学力不足でコミュニケーションが限られ、研修先にはご迷惑をおかけしましたが、ニュージーランドの精神医療の現状、地域で支えていくための視点、患者へのエンパワメント、ストレングス等、勉強させていただくことができました。百聞は一見に如かずではありませんが、研修で見たことは私の中に自然に吸収されたと思います。



## ふれあい看護体験報告



7月26日当院東2、3病棟においてふれあい看護体験を実施しました。今年の参加者は武雄高校2年生9名、鹿島実業高校3年生1名の10名で、参加者全員が医療従事者をを目指す事を考え、看護師や保健師、薬剤師などの職業に就きたいという学生でした。今後、医療従事者を目指している方々であり、施設見学や説明、指導に対しても真剣に取り組む姿勢が見られ、病院の設備や器具、働いている業種など様々な事に関心を持たれているように感じました。

看護体験については、経管栄養や食事介助を見学し、車椅子の操作、バイタルサインの測定、足浴などを体験して頂きました。実際の看護の場面を目にすることや器具類に触れる事、患者さまと触れ合う事で多くの学びがあり、自分の思っているイメージとの違いに驚きや感動もあったようです。

短時間の看護体験ではありましたが、体験後のレポートやアンケートでは、看護師は大変な仕事ではあるが、その分やりがいもある仕事であり頑張って看護師を目指したい、今までよりも更に看護の仕事に興味がわきましたなどの意見が聞かれました。

今後もふれあい看護体験を通して高校生を受け入れることで、病院での仕事や看護師の仕事について関心を持っていただくように努めていきたいと思えます。

報告者：吉武克彦

# 第43回 日本看護学会 精神看護 学術集会へ参加して

看護部 西2病棟 今里 和也

平成24年7月19日(木)、20(金)の2日間、佐賀市文化会館において、日本看護学会 精神看護 学術集会が開催されました。昨年の東日本大震災をはじめとし、自然の脅威や経済状況・政治の混乱といった社会変革・混乱の時期のなかにおいて、人と人との絆が重要視され特に心のつながりの大切さ、支え・支えられる人間相互の関係性が、危機状況において救いとなっています。従来から精神看護は人間の関係性を基盤におき、心の健康について支援していますが、今こそ、そして、これから精神看護の果たす役割はますます大きくなると考えられます。そこで、今回の学術集会のテーマは「心をつなぐ・心を支えるー精神看護の新たな展開」と決定され、私も微力でありましたが学術集会準備委員会の委員メンバーとして昨年の7月より約1年間をかけて毎月の会議出席させていただきました。準備委員会メンバーは8名でしたが他の施設からは、国立病院機構肥前精神医療センター、佐賀大学医学部看護学科教務主任、佐賀大学医学部附属病院病棟師長、佐賀県精神保健福祉センター、鯨島病院病棟師長、松籟病院病棟師長、県看護協会副会長など出席者の顔ぶれから考えますと場違いではないかと思うぐらいの雰囲気の中で、毎回緊張しながら会議へ出席させていただきました。しかし、会議へ出席する度に現在の精神看護の方向性などの情報が飛び交い、より身近に感じる事ができたことや様々な場所で精神看護の新たな取り組みがなされていることを知ることができ、私自身にとって貴重な体験をさせていただきました。

さて、当学会には全国各地より約600名の看護協会メンバーが参加され盛大に開催されました。

研究発表の演題は口演53題、示説44題があり、幅広い領域の様々な視点からの発表が行われ、新たな知見が得られたものやこれからの日常の精神看護実践に活かせる内容など盛り沢山でありました。

その他、特別企画として

- 基調講演 暮らしやすい地域づくりに向けた参加と協働
  - ー当事者が表現する機会と場を生み出すことからー
  - 外口玉子 社会福祉法人かがやき会理事長
- 特別講演 ころろに出会い、ころろを援助する
  - ー精神医療での実践ー
  - 松木邦裕 京都大学大学院教育学研究科教授
- 教育講演 コンコーダンス
  - ー服薬支援の新しいコンセプトとそれを実現するスキルー
- シンポジウム～地域生活を支える協働のあり方～
- 東日本大震災被災者支援報告
  - 沓沢はつ子 石巻市保健師
- 論文作成支援講座～論文作成のポイント～



以上のような内容で学術集会が行われましたが、シンポジウムにはシンポジストとして当院より精神科医長である谷口研一朗先生が出席され、地域連携パスを用いた退院支援・地域生活支援について、精神科病床の機能分化と地域精神医療保健福祉体制の連携を推進することを目的した他の医療機関間や施設間での連携の可能性について熱い討議をされていました。その他、当院からは、口演発表会場の退院支援に関する発表会場において、リカバリーセンターほほ笑み(精神科デイケア)責任者の本山師長が座長として堂々とされた態度で見事に職責を果たされていました。

私自身は、準備委員会メンバーとして口演発表の第3会場(大会議室)の責任者として当日は参加させていただきましたが、全国より参加された看護協会の方々の熱い視線や質問に圧倒され、看護へ対する情熱を肌で感じる事ができ、私自身も大変よい刺激になりました。また、微力でありましたが今学術集会へ参加に伴い準備段階において、病院及び職場のみなさんには大変ご迷惑おかけしましたが、貴重な経験をさせていただき深く感謝いたします。





# 湯らっくすコンサートに参加して

リハビリセンター作業療法士 佐伯 典子

第4回湯らっくすコンサートが、6月24日(日)に嬉野市体育館にて行われました。今年の湯らっくすコンサートについて、演奏メンバーに参加の有無を尋ねると、全員が参加を希望されており、リハビリセンターと西1病棟合同での参加となりました。リハビリセンターの演奏メンバー7名が出場され、また、コンサート鑑賞に13名の利用者様が参加をされました。

湯らっくすコンサートという公の発表の場ということで、熱心に練習に励まれていました。また、新しく参加された演奏メンバーも、本番に向けて、自主的に空き時間を利用してスタッフや他の新しいメンバーと共に練習をされていました。最初はどのタイミングを取っていいか分からなかったけれど、練習を重ねることで少しずつリズムの取り方が分かってこられたようで、うまく出来た時はとても喜ばれていました。

コンサート当日は音楽室にて最終練習を済ませると、10時30分に会場に向かいました。あいにく雨模様でしたが、演奏メンバーとスタッフ全員で協力して楽器を会場に運びこみ、すぐにリハーサルを行いました。その後、昼食を摂り、「ちょっと緊張するね」とメンバー同士で話しながら、本番までの休憩時間を過ごしました。

法被を着て準備を行い、袖にて待機しておりました。予定通り、13時より湯らっくすコンサートが始まり、ハッピーフィールドの出場はプログラムの2番目であった為、前の演奏者の後すぐに本番となりました。皆さん緊張をされていましたが、大きなミスもなく、堂々と演奏をされている姿が印象的で、本番で自分たちの番が終わったあと、うまく演奏できた事をお互いに笑顔で話されており、達成感を得ることが出来たようでした。また観賞で参加された利用者の方々も、落ち着いて静かに観賞されており、ハッピーフィールドの演奏を聴いて、「去年より良くできていたよ」などメンバーへ話しかけられていました。その後、他の演奏を聴いて、「歌がすごくきれいだったね」等、心に残った演奏について話されていました。またリハビリセンターに参加はされていない方も、自分で会場に足を運ばれるなど興味を持って参加されていました。

また、湯らっくすコンサートのビデオを見ながら、その時の演奏メンバーの様子を楽しそうに笑いながらお互いに振り返って話されていました。

## フラダンスボランティア



6月14日、朋寿苑1階レクホールにて誕生会を行いました。今回の催し物の一つに『嬉野・武雄ハワイアンフラ』の方々をお招きし、フラダンスを披露して頂きました。初めてフラダンスを見る入苑者の方も多く、「大変綺麗でした」「良かった」「良い思い出になりました」と感激され、中には涙を流される方もおられました。また、ダンスを見ながら一緒になって手を動かし、踊られる方もおられ、楽しい雰囲気で開催することができました。

嬉野・武雄ハワイアンフラの方々、素敵な踊りをありがとうございました。



# 防火・防災訓練について

平成24年9月1日(土)、防災の日に友朋会においても、西5病棟4階からの出火を想定し防火・防災訓練が実施されました。

今回新病棟での初めての訓練であり、各スタッフが緊張感を持ちながらも、一人一人が役割意識を持って冷静な態度で行動できることを目標に訓練に臨みました。

10時00分、非常ベルが作動し、初期消火。消防署への通報や院内一斉放送の依頼等マニュアルに沿っての行動ができました。

また、消化栓から屋外への放水訓練やはしご車での避難訓練も実施され、本番さながらの動きができ、訓練を行うことで、スタッフの自信にも繋がったと思われます。

今回の防火・防災訓練には総勢350名の職員の方々に協力を頂き、事故もなく無事に訓練を終了できたことを感謝いたします。

火を出さない事が原則ですが、非常時には全スタッフが今回の訓練での学びを活かし連携した動きができるように、今後も訓練を実施していきたいと思います。

看護部 西5病棟 石橋賢良





# オリーブスタッフ紹介



## olive

café and gallery

オリーブカフェ&ギャラリー

内線 1100 電話予約承ります



★江口しのぶ★

こんにちは。3月よりオリーブでお世話になっております、江口しのぶと申します。

町内在住、中3、小6、年少の子供がいます。

先月まで子供のバレーボールの応援にはまっておりましたが、中体連も終わり、今はこれから何をしよう...と思っているところです。

皆様に笑顔と健康をお届け出来るよう、頑張っていきたいと思っておりますので、よろしくお願い致します。



★北川直美★

1月4日よりオリーブを担当することになりました、北川直美です。

これまで色々な飲食店で勤務してきました。何もかも一からの立ち上げでのオープンは、何ぶん初めてで、行き届かないことが多々あると思いますが、皆さんのお力をお借りしながら一日も早く友朋会になじみ、愛されるお店作りに努めて参りたいと思います。皆さんのご意見ご要望もどしどし受け付けています。

ちなみにプライベートな面におきましては、住所は嬉野町、家族構成は夫、中学1年の娘、小学4年の息子がおります。趣味はスポーツ観戦。夕方はもっぱらマルキョウ通いをしていますので、もし見かけたら声でもおかけ頂ければ嬉しいです。

今後共よろしくお願ひします。



## 看護功労感謝状

リハビリセンターほほ笑みの本山信師長が永年、県民の健康増進及び保健衛生に寄与された事に対し佐賀県より感謝状を授与されました。

# 友朋会の理念 『患者さまのために』

## 基本方針

- 1 患者さま一人ひとりの立場になって、提供すべき医療・福祉を考え実践する
- 2 愛情のある医療・看護・介護・リハビリ・福祉を実践する
- 3 患者さまの退院支援・生活支援・就労支援において更なる向上を図る
- 4 芸術療法を実践する
- 5 治療空間としてアメニティーを重視する
- 6 地域に必要とされる医療を実践する
- 7 認知症への取り組みにおいて地域のリーダーとなれるよう努力する
- 8 児童・思春期の精神医学分野においてその専門性を高める
- 9 院内におけるチーム医療および地域の関係諸機関との連携を強化する
- 10 医療従事者として自己研鑽に精励する

## 職業倫理に基づく行動指針

- 1 患者さまの自己決定権を尊重する
- 2 患者さまが自己の情報を知る権利を保障する
- 3 患者さまがセカンドオピニオンを求める権利を保障する
- 4 患者さまに安全で質の高い医療を提供することに最善を尽くす
- 5 患者さまに医療的な説明を十分に行う
- 6 患者さまに治療に関する同意を確実に得る
- 7 患者さまの「基本的人権」を保障する
- 8 患者さまの尊厳を保つ
- 9 患者さまの終末期医療について理解を深め、その実践に努力する
- 10 患者さまの個人情報を守る

## 診療科の紹介及び診療担当医師一覧表

\*診療時間 ◎月曜～金曜

◎午前の部/8:30～12:30(第1土曜 8:30～12:30) ◎午後の部/13:30～17:00 ※ただし、水曜、金曜の眼科外来は10:00より開始

\*休診日/第2・3・4・5土曜、日曜、祭日、年末2日、年始3日間

\*予約診療/待ち時間短縮のため、予約診療とさせていただきます。ただし、新患、急患の場合は随時受け付けます。

日曜診療は精神科第2、第4日曜の午前中に予約診療を行っています。

平成24年10月1日現在

診療科		月	火	水	木	金	土	
精神科	新患	精神科一般 うつ病外来	菅高 谷口 藤巻	三根 吉本	谷口 菅高	富松 奥	奥 富松 藤巻	担当医
		もの忘れ	吉本・中山	松尾・中山	田中・谷口	松尾・田中	吉本・松尾	
		リハビリ	谷口		谷口			
	思春期	富松・三根・菅高						
	再来	富松 松尾	田中 谷口 藤巻	中山 奥	吉本 中山	三根 菅高	予約者のみ	
	内科	榎	竹下	岡本	林原・榎	跡上	非常勤医師	
泌尿器科	午前	倉富	江原	倉富	江原	倉富	予約者のみ	
	午後	事前連絡	事前連絡	事前連絡	事前連絡	事前連絡		
	透析センター	江原	江原・井上	江原・井上	江原・井上	江原・井上	井上	
	眼科	崎戸(13時～)		崎戸(10時～)		崎戸(10時～)		
	整形外科					非常勤医師 (11時～)		
	皮膚科						非常勤医師 (午前のみ)	

\*眼科の診療時間 ◎月曜日 午後のみ13:00～17:00 ◎水・金曜日 午前10:00～12:30 午後13:30～17:00



### 医療法人財団 友朋会

〒843-0394  
 佐賀県嬉野市嬉野町大字下宿乙1919  
 電話:0954-43-0157  
 FAX:0954-43-3440  
 E-mail:info@yuhokai.com  
 URL:http://www.yuhokai.com/

- 嬉野温泉病院 0954-43-0157
  - 認知症疾患医療センター 0954-43-0003
  - リハビリセンター「ほほ笑み」 0954-43-0194
  - 老人デイケアセンター 0954-43-0233
  - 介護老人保健施設 朋寿苑 0954-42-2900
  - 友朋会介護サービスセンター 0954-20-2531
  - グループホーム 千寿荘 0954-43-0157
  - 就労支援センター「希望」 0954-43-0249
  - 地域連携室 0954-43-0255
  - 小規模多機能ホーム「孝心の里」 0954-43-7550
  - ものわすれメンタルクリニック 092-534-5151
- 〒815-0082 福岡市南区大橋2-19-20ピュアドームエレガント平尾3・4F